2018年度秋学期　統計学　第１１回

分布の「型」を考える —
確率分布モデルと正規分布

浅野　晃
関西大学総合情報学部

ちょっと前回の復習

「統計的推測」とは

調べたい集団の，データ全体を調べられるか？

日本男性全員の身長を調べられるか？

データの一部を調べて
度数分布を推測する

いや，せめて平均や分散を推測する

統計的推測

無作為抽出

データの集団から，いくつかの数値を
公平なくじびきで選ぶ

［無作為標本抽出］という

調べたい（が全部を調べるのは無理な）集団［母集団］

調べられる程度のデータ
［標本（サンプル）］

度数分布で考えると

標本の［確率分布］

母集団の度数分布

階級値	相対度数	無作為抽出	階級値	選ばれる確率
162.5	15%	→	162.5	15%
167.5	20%		167.5	20%
172.5	20%		172.5	20%
177.5	10%		177.5	10%

A. Asano, Kansai Univ.

確率分布と確率変数

つまり

母集団の度数分布（母集団分布） ＝ 標本の確率分布

階級値	選ばれる確率
162.5	15%
167.5	20%
172.5	20%
177.5	10%

いくらとは決まっていないが，

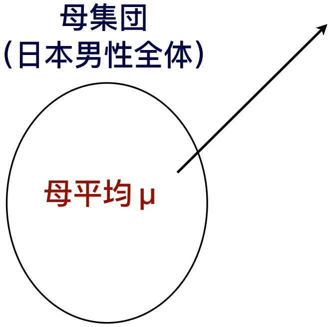
確率分布が決まっている

［確率変数］という

A. Asano, Kansai Univ.

母平均の推定

母集団（日本男性全体）



標本として数値をいくつか取り出して，それらの平均

［標本平均］

標本平均は母平均に近い値になるか？

母平均が知りたい

が，日本男性全員は調べられない

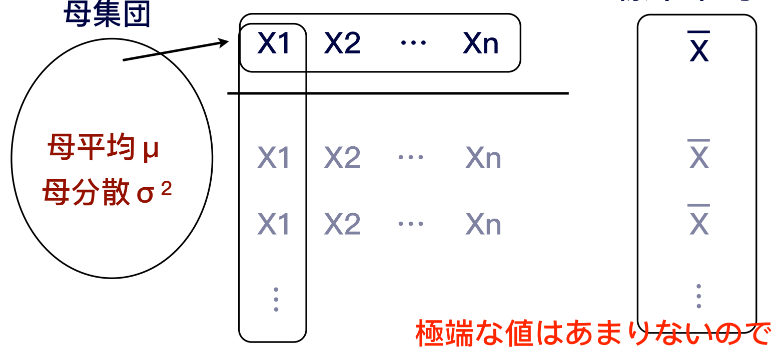
A. Asano, Kansai Univ.

母平均の推定

母集団

サイズnの標本１セット

標本平均



極端な値はあまりないので分散が小さくなる

母集団と同じ
期待値μ
分散σ²

期待値μ
分散　σ²/n

A. Asano, Kansai Univ.

母平均の推定

母平均がμ 母分散がσ² のとき，標本平均の**期待値がμ** 標本平均の**分散がσ²/n**

仮に何度も標本を抽出して，何度も標本平均を計算したとすると

分散が小さくなっているので，
たいてい，ほぼ母平均に近い値になる

いま１回だけ計算した標本平均も，
おそらく，ほぼ母平均に近い値だろう

母平均の推定

いま１回だけ計算した標本平均も，
おそらく，ほぼ母平均に近い値だろう

どのくらい近い？

どのくらいの確率で？
はずれる確率は？

このあたりを
今回から考える

分布の「型」を考える🤔

母平均の推定

いま１回だけ計算した標本平均も，
おそらく，ほぼ母平均に近い値だろう

どのくらい近い？

どのくらいの確率で？
はずれる確率は？

計算するには，
式で表されてないといけない

A. Asano, Kansai Univ.

母集団分布は

つまり

母集団の度数分布（母集団分布） ＝ 標本の確率分布

階級値	選ばれる確率
162.5	15%
167.5	20%
172.5	20%
177.5	10%

これは式ではなく数値の集まり，計算できない

A. Asano, Kansai Univ.

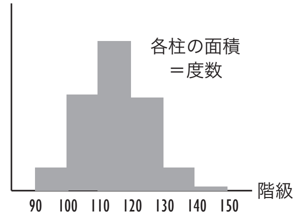
式で表す

度数分布を

階級値	選ばれる確率
162.5	15%
167.5	20%
172.5	20%
177.5	10%

何かの式で書けるものと仮定する

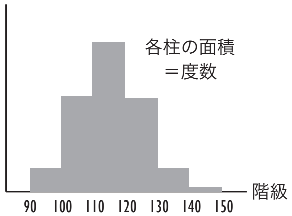
ヒストグラムが



何かの式で表される関数のグラフであると仮定する

A. Asano, Kansai Univ.

確率分布モデルとパラメータ

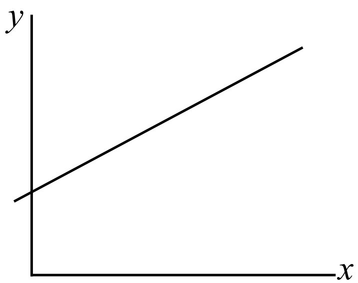


何かの式のグラフであると仮定する

式＝確率分布モデル

パラメータを推定すればグラフが描ける

直線のモデル



$$y = \underbrace{a}_{}x + \underbrace{b}_{}$$

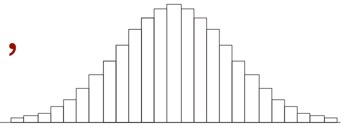
パラメータ

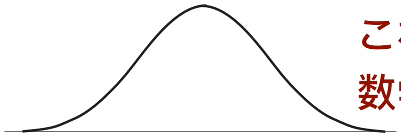
A. Asano, Kansai Univ.

連続型確率分布

ヒストグラムを式で表す

こんなヒストグラムを，
式で書けるだろうか？





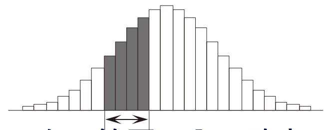
これを表す式のほうが
数学は簡単。

階級の区切り方が
どんどん細かくなって，
見えなくなったと考える

［連続型確率分布］

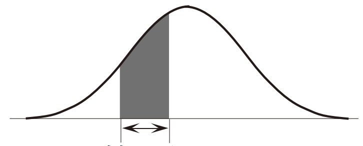
連続型確率分布

ヒストグラム



ある範囲に入る確率
＝柱の面積の合計

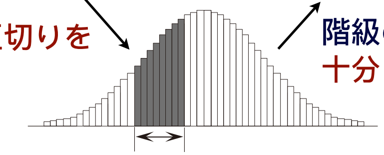
［連続型確率分布］



同じ範囲なら
柱の面積の合計は同じ

階級の区切りを
細かく

階級の区切りを
十分に細かく

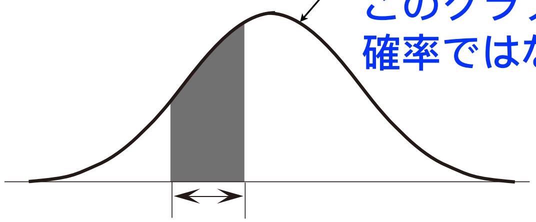


同じ範囲なら
柱の面積の合計は同じ

確率密度関数と確率

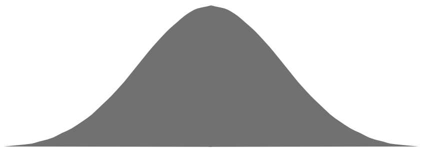
ヒストグラムの上の縁＝
［確率密度関数］

このグラフが示すのは
確率ではない

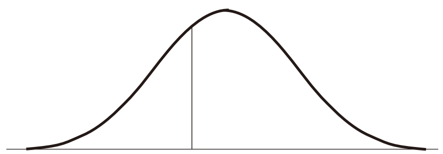


この範囲に入る確率＝この面積
＝確率密度関数の積分

確率密度関数の矛盾？



連続型確率変数が
すべての実数のうちの
どれかになる確率
＝1 (100%)

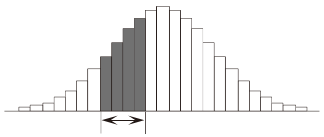


幅が0だから，面積も0

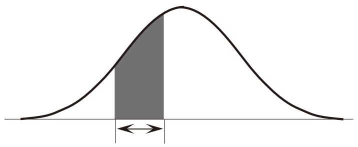
連続型確率変数が
ある特定の値aになる確率
＝0

なんかヘン？
演習の解答例の付録で

連続型確率分布は，数学の都合



こんなのより



こんなののほうが
数式にしやすい

実際のデータは，有限の桁数の数字
で表されている限り，必ず離散的。

正規分布モデル

正規分布モデル

世の中には，［正規分布モデル］で表せる
ような母集団分布がたくさんある

長さの測定値の分布
センター試験の成績の分布　…

[中心極限定理]

母集団のばらつきの原因が
無数の独立な原因の和のとき，
母集団分布は概ね正規分布になる

正規分布の特徴

パラメータが平均（期待値）と分散
μ　　σ^2

(わかりやすいものを推定すればよい
のでで都合がいい)

確率変数Xの確率分布が
期待値μ，分散σ^2の正規分布であることを

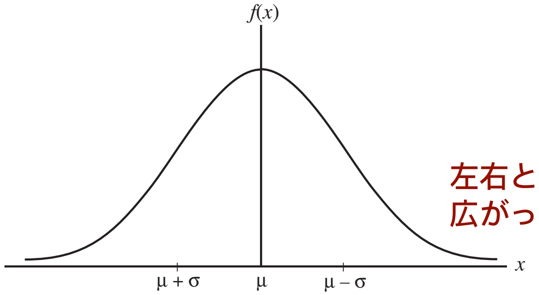
確率変数XがN(μ, σ^2)にしたがう　という

正規分布の特徴

パラメータが平均（期待値）と分散

μ　　　　　σ^2

確率密度関数はこんな形

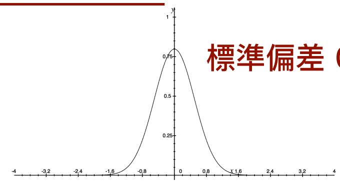


左右とも無限に
広がっている

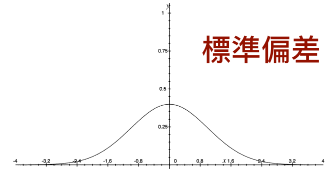
A. Asano, Kansai Univ.

正規分布の特徴

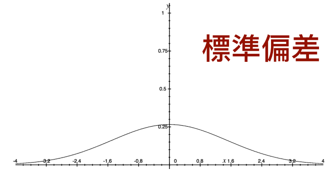
期待値0の正規分布の
確率密度関数



標準偏差 0.5



標準偏差 1.0



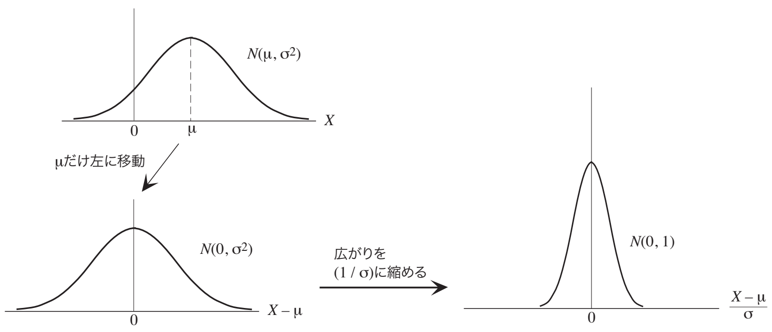
標準偏差 1.5

標準偏差が大きくなると
中央部の広がりが大きくなり
高さが低くなる

A. Asano, Kansai Univ.

正規分布の性質 1

確率変数XがN(μ , σ 2)にしたがう　とき



(X- μ)/ σ　はN(0, 1)にしたがう

A. Asano, Kansai Univ.

正規分布の性質 1

確率変数XがN(μ , σ 2)にしたがう　とき

(X- μ)/ σ　はN(0, 1)にしたがう

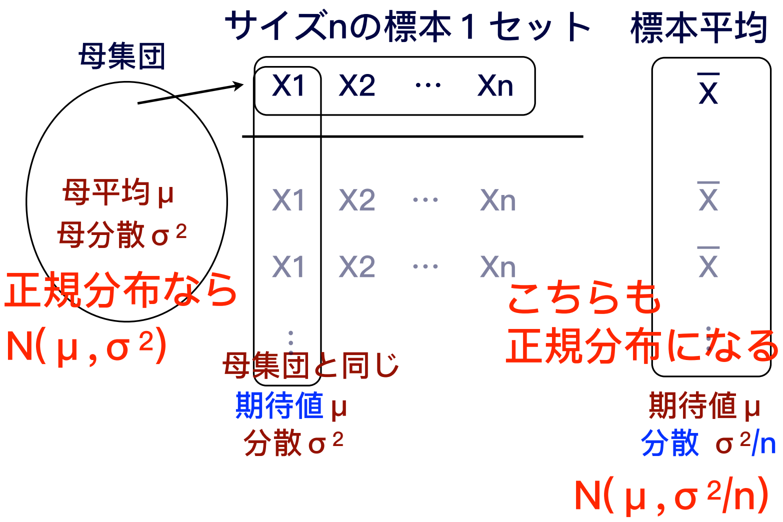
「標準得点」と同じ

変換しても，
やはり正規分布になる

N(0,1)を［標準正規分布］という

A. Asano, Kansai Univ.

正規分布の性質 2

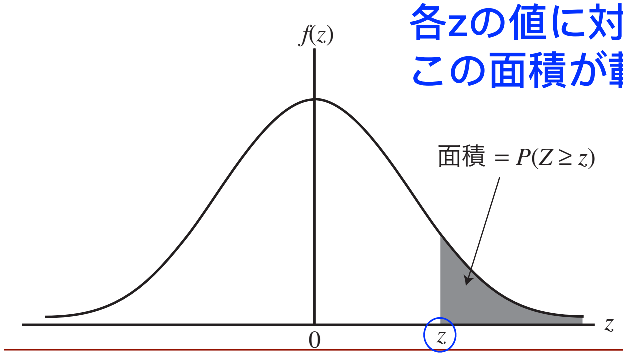


正規分布表の使いかた🔢

正規分布にもとづく計算

正規分布にしたがう確率変数が
ある範囲に入る確率

数表を使って求める　標準正規分布について，各zの値に対する
この面積が載っている



正規分布にもとづく計算

例）確率変数XがN(50, 10^2)にしたがうとき，Xが60以上である確率を求めよ。

性質１により，Z = (X - 50) / 10 と変換
Zは標準正規分布にしたがう

X=60のとき，Z=(60 - 50) / 10 = 1

よって，求めるのは，Zが1以上である確率

$$P(Z \geqq 1)$$

正規分布にもとづく計算

$P(Z \geqq z)$ を求める

zの小数第２位

zの小数第１位まで

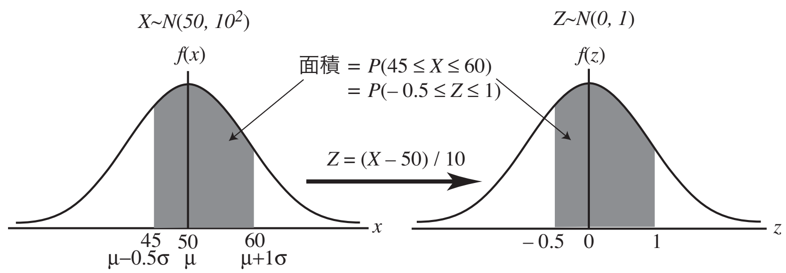
	0.00	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	
0.0	0.50000	0.49601	0.49202	0.48803	0.48405	0.48006	
0.1	0.46017	0.45620	0.45224	0.44828	0.44433	0.44038	
0.2	0.42074	0.41683	0.41294	0.40905	0.40517	0.40129	⋯
0.3	0.38209	0.37828	0.37448	0.37070	0.36693	0.36317	
0.4	0.34458	0.34090	0.33724	0.33360	0.32997	0.32636	
			⋮				
1.0	0.15866	0.15625	0.15386	0.15151	0.14917	0.14686	⋯

$P(Z \geqq 1)$

A. Asano, Kansai Univ.

正規分布にもとづく計算

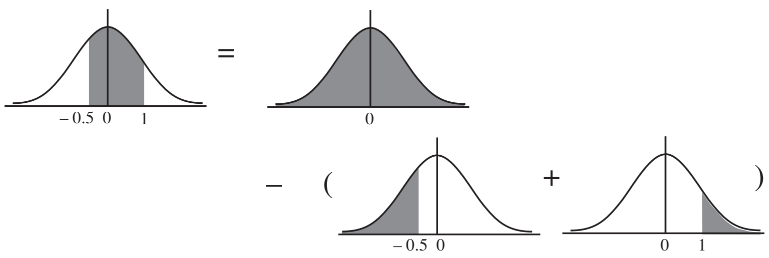
演習の２



A. Asano, Kansai Univ.

正規分布にもとづく計算

演習の２



A. Asano, Kansai Univ.

Special thanks to
DynaFont 金剛黒体.

A. Asano, Kansai Univ.